

# おんじゅく

9

昭和53年9月

第180号

千葉県御宿町役場



“痛くないよ 回を大きくあけて”  
(1歳6ヶ月見検診—町公民館で)

# 統領が来町

メキシコ大統領ロペス・ポルテイヨ氏が11月1日来町されることとなりました。アカプルコとの姉妹都市の締結とメキシコ大統領の来町に対する表敬訪問をかねて、岩井敏夫町長、岩崎栄一郎議会議長が、7月31日から8月11日までメキシコを訪問しました。また青年団の一行が9月7日から9月21日まで表敬訪問をしました。

国賓として日本に来た一国の元首が、地方に来られることはあまり例がありません。そこで町も大統領を心から歓迎しようと準備を進めています。大統領は、東京からヘリコプターで来ますが、地形上、岩和田新漁港の広場に下りることに決まりました。漁業に関係するみなさんにはご不便をおかけしますが、ご協力くださいますようお願いします。

メキシコ・アカプルコと姉妹都市に

御宿の海岸によくにているアカプルコの海岸



# 大日1月11



調印式をすませアカプルコ市長と固い握手をする岩井町長

## 訪問した岩井町長にきく

メキシコを訪問した岩井町長に 大統領と会見した模様などを聞いてみる。訪問の目的、任務、ポルティヨ

問い メキシコ訪問はどういう目的で行かれたのですか。

岩井町長 今回の訪問は二つの重要な任務がありました。

一つは大統領と会見し、訪日の際、御宿に来ていただくことと、もう一つはアカプルコとの姉妹都市締結をすることでした。

われわれは直接、大統領室に通された。私は次のようなことを話した。

「三百六十九年前に御宿でおきたことについては、大統領も十分認識されていると思いますので省略します。今回の記念碑の改築とメキシコ庭園を造るにあたり、経済的助成をいただきたいことを、お礼申し上げます。

今年日本政府からメキシコに贈呈しました漁業指導船の名を御宿丸と大統領が直接名付けられたことは、町としてこのうえない名誉であり、町をあげて感謝しています。

大統領が訪日する際にはぜひに御宿へ足を運んでいただきたいし、その時にはぜひにアカプルコ市長にも同行を願います。」

このことは、快諾していただきました。

ポルティヨ大統領は、メキシコ人の国民性の発露といえる人で親しみやすく、人がらが明るい人でした。また庶民的であり、大統領として偉ぶるところもありませんでした。

お土産に持って行った九谷焼の花瓶をさしあげると「なかも立派ですが、包みの箱だけでもいた

## 役員と親善両国 大賛成も市長も大統領

無事に任務を終えたことを喜びと思っています。

問い ポルティヨ大統領との会見はどうでしたか。

町長 大統領とは八月四日、十二時から三十分ほど会見した。普通なら接見室で会うのだそうだが、

「だく価値がある」と話してくれました。

この言葉だけでも、大統領のユ

## 大油田をいくつも発見

問い アカプルコ市との姉妹都市締結はどうでしたか。

町長 姉妹都市締結のためアカプルコ市役所を訪れたのは、八月七

ーモアのある明るい人柄がわかっ  
てもらえると思います。

日午後一時でした。アカプルコ市長には次のことを話しました。

一昨年、われわれの青年団がアカプルコを訪問した際に、大変な歓待を受けたことに感謝しています。

三百六十九年前の史実が今になって実を結ぶということは大変うれしい。

今後日本とメキシコの友好を深めるためには、それぞれ末端の御宿とアカプルコが兄弟となることがお互いの国のためになるでしょう。

このことについて市長はまったく同感ということでした。

アカプルコ市の歴史台帳に、私とアカプルコ市長と駐日大使が署名をして姉妹都市締結となりました。

みなさんも新聞などでご存知と思うが、メキシコは現在、大油田がいくつも発見されています。そしてこの石油を日本に積極的に供給するという事です。これなども、御宿が大きな影響をなしていると自負しています。

役所などにおいても、この傾向がありました。

人口は少ないし日本人のように生存競争も激しくなく、のんびりした国柄のせいでしょうか。

昼休みなども、三時間たっぷりという、こういう話をするところという、こういう話をするところがある人もあるだろうが、メキシコは貧富の差が激しい。役人とか金持ちは日本では見られないような家に住んでいる。そうかと思つと郊外には長屋のような家がたくさん見られる。

道路は国土に合わせて広くとつてあるが、技術的には幼稚な感じでした。このことは鉄道やすべて全般のことにも言えました。

### これから開発する国

後進国という言葉は使いたくないが、未開発だけに、これから期待できる国だと強く感じた。

それゆえに日本のこれからの外交を考えるうえにおいて、非常に大きなウエイトを占める国である。国外に出るたびに思うことだが、日本ほど住み良い国はない。

行政がいきわたり、社会保障制度は進み、すべて平等化されている。こういう国は外国には数少ないのです。



メキシコ大統領との会見

## 昼休みは3時間も 親切で親しみやすい国民

# メキシコ訪問記

議会議長

岩崎

栄一郎

7月31日(月)快晴

## 異国の果てで 宿なしの苦勞

「鈴木君、帰りは一人だから気をつけて帰ってくれ」と別れて、私と町長は税関に向かった。

大多喜町長一行は見送りの助役ほか職員と別れを惜しんでいた。

二十時四十二分、成田発サンフランシスコ行きの日航機は私たち一行を乗せて離陸した。

ジャンボは、さすがに大きい。二十三時機内食が出た。

すしとパンとそばとコーヒード日本食ともしばしお別れだ。そして、今日から十二日間メキシコに旅出つ。クエルナバカ市で開催さ

れる国際姉妹都市会議に出席し、

さらには、大統領表敬訪問とアカプルコ市と姉妹都市締結に各地を訪れることになったのである。「おはようございます」「おはようございます」という可愛い声に目をさ

ます。スチュワードである。時計を見たら四時ジャスト。

四時二十分、機内での朝食だが腹がへらない。五時十分にあなウンスがあった。四十分後にサンフランシスコに到着。サンフランシ

スコの現在時間は十三時十分。機内から眺めるサンフランシスコ空港周辺は、ハゲ山と赤土と砂漠である。まるで劇映画の西部に

でもきたようだ。飛行機から降りてはじめて踏んだ異国の土、ただ感無量である。入国手続きに手間どって乗り継ぐ飛行機に乗れなくなり次の便の空席待ちとなる。

ここで、自分の時計を見ると八月一日七時三十五分だが、現地時間

間は七月三十一日の十五時三十七分に修正する。着陸してから二時間三十分ばかり時間を費した。

十六時サンフランシスコ空港を離陸してロスに向かう。

ロスアンゼルス空港には十七時十五分着陸の予定である。メキシコ行き十七時三十分に乗るには十五分しかない。

言葉がわからないので身振り、手振りやよつこのことメキシコ行きのゲートにたどり着いたときにはすでにゲートは閉まっていた。

メキシコ行きの飛行機は一日一便とのことである。明日の十七時三十分まで飛行機はない。異国の果てで言葉もわからずねぐらもない。どうしたらよいかしばしとまどったが、ホテルヒルトンがある

このことを大多喜町の小倉議員が

いったので、それをたずねることにした。それとタクシーを頼むのも身振り、手振りやよつこのことホテルに着いた。今夜はどうと

## 電柱、電線がないロス市内

8月1日(日)晴

昨夜は少々興奮気味だったためか、時差ぼけのせい、四時に目がさめる。朝食前に散歩に出る。

ロス市内は大きなビルと広々とした道路で実に明るくきれいである。気付いてみると電柱、電線がない。聞いてみたらすべて地下に埋め込んであるとのこと。

十六時まで市内見学をして十七

うメキシコに行かれない。

部屋でくつろいだのが二十時、今朝の機内食しか食べていないので、空腹を感じてきた。

サマータイムだろう二十時を回っても外はまだ暗くならない。二十三時三十分どうやら明日の連絡がとれたので休むことにした。

考えてみると、成田空港を離陸してからサンフランシスコ、ロスアンゼルスと七月三十一日が二日もあったことになる。

このようなことは戦争中、兵隊で大陸に渡ったときと、今度で二回目である。

時三十分発のメキシコ行きの飛行機に乗る。後で述べますがここからメキシコ時間が始まるのです。

ロスを離陸したのが一時間三十分遅れの十七時、機は一路メキシコへと飛び立ったのです。メキシコ

空港の着陸は二十三時。ここでロスとの時差は一時間です。メキシコ駐日大使、植原補佐官、その他の人たちが出迎えてくれましたので、税関はOKです。

CAMINOホテルに着いたの



メキシコ大使、教会教主と一緒に（タスコレストランで）

が二十四時、やれやれと思うのもつかの間、大使が音楽会に招待するので待っているとのことと、夜明けまでにぎわっているその車で音楽堂へ。終わつたのが二時三十分。メキシコ人は陽気だ。

外では33・5度、輪を組んで歌って踊っている。話しを聞いてみると、夜明けまでにぎわっているそのうだ。

8月2日(月)曇り

電話のベルが目がさめた。時計は十時を回っていた。急いで身仕度をして朝食に行く。卵焼きとメキシコ料理、それはトマトのきざんだものとキャベツらしいものとパンである。日本大使館へ松本大使を訪問する。市内は車の行列である。

そして、あの広い道路の中央に

“人生は楽し”

夜は酒と踊り

音楽ですごす

は緑地帯ともいいうか、大きな木が整然と空に向かって立ち並んでいるのが印象的だった。

さすがメキシコシティは首都である。日本本土の五倍を有するメキシコ、その首都がメキシコシティである。日本でいうと富士山の五合目くらい(二千三百メートル)の高原、そのせいでもあるまいが

歩く人の姿ものんびりしており、昼食にしても十分時間をかけている。日本と違ってケタはずれである。十三時頃から十六時頃まで時間をたっぷりとり質、量ともに十分腹ごしらえするそう。

日本のお茶漬け精神はここでは通用しないということがあとでわかった。それは今日から大使の案内で、このような生活を強いられるというよりも、むしろこのよう

な生活の中で、あちらの人たちと接触するからです。メキシコシティでは宝くじを持って大人も子どもも自動車と自動車の間をぬって売り歩いている。松本大使訪問の後、明日開かれる姉妹都市国際会議に出席のため、出迎える車でクエルナバカに向かいました。

シティから約百五十キロ南下、途中見渡す限りの広野、金持ちであろう広いへいの中の大邸宅が点々と見える。そのへいにセミミタにいくつあったバラック小屋で暮らしている人、貧富の差、それでもメキシコ人は人をねたまない。他人を押しつけてまで勉強したり金儲けはしないとのこと。

人生は何のためにあるのかと聞いたら楽しむためにある。楽しむためにある人生のなかで一番楽し

い時間は夜に決まっている。どうしてか、と聞きただしたら音楽を聞き、女と踊り、テキーラ(竜舌蘭で作った酒)を飲んで夜を明かす。

何の苦勞もなさそうな陽気な人と人との集まりが、メキシコなのだろうか。十八時、クエルナバカのホテルに到着。さっそく前夜祭パーティーに案内される。

それは歌と踊りにぎやかだ。昼食を食べないので空腹を感じ、岩井町長と大多喜町の山岸議長と私の三人はパーティーをぬけ出し、レストランに行ったが言葉が通じないため、手振り身振りの注文にボーイさんも大弱り……。御宿のみなさん、お休みなさいとベッドに入ったのが二十四時でした。

8月3日(火)晴

ホテルジャカランダでの一晩が明けた。朝六時といってもまだ薄暗い、日本の秋のような気候である。ここは高級保養地だそう。八時三十分、当地の要人と朝食を済ませ、さっそくバスで会場に向かう。途中、歓迎の横断幕がこちらに張りめぐらされているの

が目につく。岩井町長と大多喜町長は、代表して設営された壇上に乗る。

その左側には政府を代表して外務大臣とその要人、右側には国家保安官が隊旗を持って十名ほど整列している。私たちの前は大臣の

# 岩井町長のひびくかな拍手

開会式は一時間遅れの十一時。高まる緊張のなかで主催者から外務大臣のあいさつ、通訳語はスペイン語と英語だが、それは私たちにもよくわかった。

「日本のみなさん、よく来てくれました。私たちは心をこめて歓迎いたします。」とのあいさつ。会場は拍手とどよめきで何がどうしたのかわからない。

そのようななかで御宿・若井、大多喜・宍倉と紹介されて両者起立して出席者一同に手を上げてのあいさつ。だが一段と高なる拍手とどよめきで会場は興奮のつぼと化した。

記者は私たちの前に来て容赦なくフラッシュをたく。終わったのが十三時三十分、街の中はお祭りさわぎで大変な賑わいだ。会場

妻君をはじめ、その仲良人の妻君、その後の席に御宿のプラカードを持った青年が案内する。どこを向いても目の青い人や黒い人、髪のももさまざま。日本を離れた異国の地でお互いに言葉もわからな

い外国人同志が一緒になって笑み返って見ると音楽隊が隊伍を整え外務大臣の入場です。

前の広場では、どこからともなく集まった人たちで、もう歌って、踊っている。

私たちは別の屋外パーティ会場に自動車で案内されるのだが、街の中は混雑がひどく、なかなかタクシーが拾えない。

交通整理のおまわりさんが自分の仕事を捨ててタクシーを拾うのに一役かってくれたが、二台しか拾えない。私と町長は次の車を待つことにしたが、当地の日産自動車の岩下さんが案内してくれたので心配はなかった。そのとき一人

の青年が、車を持ってくるから待つように言われた。岩下さんの話によれば、メキシコ人は全く人がよく、他人の事でも自分のことのようにやってくれるのだと聞かされた。

ところが、パーティ会場に行つてわかったことだが、この青年は大学の先生で、市長に頼まれて私たちを見守りながら案内してくる人だと聞かされた。この先生の名前は忘れたが、がっちりした体格で愛きょうもよく、メキシコ滞在中はどこにでもついてきてくれました。

この先生の運転する自動車は、屋外パーティ会場に到着。すでにパーティは始まっていた。

といわれたので、私はコブラが出る困るからという。コブラは出ないよと大笑。最後に君が代を吹いたらあのように乱れていた人たちが全員起立して不動の姿勢には頭の下がる思いがしました。午前一時を過ぎたので私たちは市長に別れを告げホテルに戻る。私たちのため、毎日夜遅くまでいろいろとお世話してくださるメキシコ大使と植原補佐官に心から感謝いたします。

8月4日(水)晴

## いよいよ大統領と謁見の日

八時三十分起床、九時十分ロビー前に集合との電話なので全員朝食はとらない。間もなく迎えにきた自動車に分乗してメキシコシティに向かう。御宿から東京くらいの所要時間。大きな山を一つ越さなければならぬ。

山といっても山脈を走るのだ。今日は、大統領に謁見をする。十二時から三十分間の予定。やがて自動車は官邸前に着く。大使の案内で官邸に入る。MP

## きれいなメキシコの女性

私たちもバラソルの下の一つの席を与えられました。色とりどりの料理、ビール、酒をお互いにくみかわし、最高潮に達しました。ステージでは民族衣装をつけた男女が踊っている。

きれいな踊り子さんたちだ。メキシコの女の子たちはみんなきれいな人ばかりなのだろうか。思わ

ずシャッターの数が増す。今度は当地クエルナバカ市長さんの招待を受けている。二十時にホテルを出ることに約束されているが、迎えの車が着いたのが二十一時。市長宅に着いて驚いたことは、街中でありながら大邸宅に住んでいて、その屋敷の広いことだ。夫妻をはじめ、みな

と兵隊とで入口を守っているが、何のこともなく控室に案内された。御宿を出発するときから神経をとがらせ、飛行機から飛行機に乗り継ぐときもホテルでも、自動車でも何でも体からは身離さず持ってきた大統領への贈り物だ。荷ほ

どきも終わり、中から取り出した総花模様の大きな花びん、途中何事もなく運んできたので、町長と二人で胸をなでおろす。待つこと二十分、普通ならば大統領面会室で十分くらいしか会わないとのことだが、今日は特別に大統領執務

室で会見するとの連絡があり、私たちは中庭を通って執務控室に案内された。部屋の前で護衛の兵士が笑みを浮かべ、私たちを心よく迎えてくれた。記者が十名くらい私たちの後を追って控室に入ってくる。

## 私たちの祖先救つてくたされ

# あらためてお礼申します

大統領

ドアが開いた、室内からにこにこ手を差し伸べてこちらに向かつて歩いてくる。

私たちだけの入室で記者は入れない。おもむろにソファーに腰を下ろす。さすがにこのときだけはみんな緊張した。メキシコ大使からの紹介で植原補佐官の通訳、名古屋さんから紹介がはじまり、つぎに御宿、大多喜とつぎつぎに紹介され、大統領が一人一人に手を

差しのべて握手された。私は、なにがなんだかわからない。ただ夢中で差し出された大統領の手に四番目ですがつたように覚えている。それから、大多喜さんへと進むわけだが、気がついてみたら、日本の松永大使も同席していた。

ドアが開いた。七、八名の人がどやどや入ってきた。カメラを持っていたので、さきほどの記者だとすぐ直感した。

ーを切った。いよいよ会話が始まる。あなたたちは遠いメキシコによくきてくれました。私たちの祖先が御宿沖で沈没し、乗務員が御宿、大多喜の村民に助けられたことを知っております。改めてお礼を申し上げますとのあいさつから始った。

岩井町長は、鳥羽で進水式をした船に「おんじゆく丸」と名付けていたありがたいがとうございまして、とのことからはじまり、メキシコ塔が昭和三年に建立されて

統領は大喜びで、その日を楽しましにしておりますと答えた。

つぎに、大多喜町長との会話を終わり、再会を約束して官邸を後にした。出口まで送ってくれたのが印象的でした。何んという心遣いのやさしい人であろうかと。さらに、自動車で外務省を訪れ

外務大臣室に案内される。ここは一寸うるさいらしく、エレベーターを下りて三カ所くらいの検問、大使の案内で後に続くのだが、メキシコ人から見れば私たちは毛色の変った外人。はじめ

てなので外務省の職員も一寸手間どった様子だった。クエルナバカの会議で会っているのが今日が二回目、大臣快よく迎えてくれたが飛行機でどこかに出張するとのこと。

大急ぎで大臣の秘書に盾のようなものを取り寄せて、名古屋、大多喜、御宿にくれる。

## 外務大臣も

### 贈り物に喜び

岩井町長は持っていた電子計算機と扇子をプレゼントする。大臣は早速封を開き、扇子は自分の机の上にその場で飾り、大喜びだっ

た。秘書に扇子を指さし、何か説明しているが私たちにはわからない。大臣が出かけるため三十分くらいで別れを告げ、外務省を後にした。

途中、大使の家に立ち寄る。大邸宅だ。中国ふうの置物が好みだろう。すべてが中国ふうの物ばかりで、目をおおうような立派な品物ばかり、写真で見ると王室のよう。クエルナバカのホテルジャカランダーに帰るのだが、私は疲れて車の中で寝てしまった。ホテルに着いたのが二十時。

外は夜のどばりに包まれていた。空腹だが何も食べたくもない。一日中ゆっくり寝てみたい。大使さん、今日もご苦勞様でした。私たちの任務の前半はこれでどうやら終わった。明日はアカプルコに向かつて出発する。

かたつむりのようにバックを肩にトランクを持って……。

8月5日(木)晴

今日もすばらしい天気だ。朝食は食べたくないでコーヒーだけにする。いよいよ疲れてきた。毎日びっしりつまったスケジュールと時間の観念のなき、それに時差

## 町からの贈り物に大喜び

岩井町長はあの大きな体をふるわせながら大統領にプレゼント。にこにこ体いっぱい喜びを表

わしながら受け取る大統領。

私は、この瞬間をカメラにおさめようと記者を押しつゝシャッター





美しいタスコの町並み

ほけのせいだろう。時間の観念のなさには何回か腹立たしさを覚えた。それもそのはず、メキシコ人の陽気でのんびりした気質は世界的にも有名なそうなの。日本人が一日のうち十の用件を済ますとすれば、彼らは一つか二つやればよい方だそうです。しか

し、約束事はやぶらないと胸を張る。そして、メキシコでは「さようなら」という言葉は通用しないという。

どうしてかと聞いてみると「明日またね」、メキシコの言葉では、「アスタ・マニャーナ」何とすてきな言葉だろう。これではおこるにおこない。

## 牛がどくまで 車はストップ

こんな調子でアカプルコの市長室ではじまる調印式にとんだハブニングが起ったのです。迎える車がきた。カタツムリのように荷物を持つての移動だ。私は、町長と観光業者の車に乗ることにした。十二時二十分出発。一時間くらい遅れているが、このくらいでは遅れていない方だ。いよいよアカプルコに向かって南下する。走り続けて八時間くらいの所要時間だそうだが、途中観光都市タスコに

立ち寄るとい大使の話である。高原のなかのハイウェイを、車は走る。すばらしい高原の眺めだ。そのうち日本では見られない道路標識。黄色い三角のなかに牛の絵が書いてある。

別に気にも止めずにいたが、牛が五、六頭道路上にねそべっている。自動車は止まる。私は、運転手にクラクションを鳴らせといったら、運転手は、今に行くでしょう、との答えである。

私は思わずシャッターを切る。牛も人も本当に笑いたくなるほどのんびりしている。運転手の話はまだ続く。あなたたちのような偉い人を乗せているのでスピードを出せない。いつ、どこに牛がいる

ここからタスコの町だ。市役所の人の先導で私たちの車は続く。しばらく進むと山あいから突然絵に書いたような町が表われた。近づくにつれて古風な建物である。何んとすばらしいのだろう。車は市役所前に着く。案内されたところは二階、そこには市役所の幹部と市の有名人あわせて二十人ほどが私たちを待っていた。

## 絵のよひで美しいタスコ

かわからないとのこと。それもそのはず、あの高原に牛を放し飼いにしているのだ。さっきあった標識はこれでわかった。牛に注意との道路標識。緑と花に包まれた高級保養地、三泊お世話になったクエルナバカをあとにして三時間ほど走り続けた。いよいよタスコの町に入ったらしい。

山小屋のような茶店でのどを潤す。話を聞くと県境で、時計を見ると十三時。そこまでタスコ市長一行が私たちを出迎えに来てくれるとのこと、ここで時間調整をする。

出発との大使の号令で、車に乗る。二十分くらい走ったら前方から出迎える車が三台来た。早速歓迎式典が始まる。私たち一人一人に名前の入った感謝状と市のメダルが送られ、大歓迎を受けました。いよいよ市街の見学です。実にすばらしい。何んと表現したらわかるでしょうか。石畳の坂道を上ると、そこは教会堂と広場と商店街であろう。赤い屋根と白い壁、十六世紀の面影を今でも残した建物、両側がお店

屋さん。その中かの石畳の細い道なを歩いてみると、自分が絵の中にあるような気持ちになる。

民族衣装、銀細工、伝統家具のお店屋さん。銀で作られた食器やつば、銀のお盆に銀のテーブル、なにからなまでに銀で作られているのには驚きました。

民族衣装のお店屋さんもまたすばらしいものばかり。衣類にカバンや帽子など、どれを見てもみんな目につくものばかり。あまりきれいなので孫のカンタン服一枚買ったなら日本円で七千五百円。これは着るよりも刺しゅうを眺めた方が価値がありそうです。

市長さんに一流のレストランへ

8月6日(金)晴

## 御宿に似てるアカプルコ

さすが真夏のアカプルコは暑い。

九時、全員でレストランに行き朝食をすませる。朝食といっても日本で食べるようなおいしいものばかりで食欲はない。

ホテルは十二時でチェックアウト。身仕度をしてトランクを自動

案内された。ここは自動車で十五分くらい走ったところ。ここから眺めるタスコの町はまた格別である。

山の斜面にへばりつくようにつくられた美しいタスコの町、そして緑の山あいに見せるその全貌は中世絵画の如き気品と優雅さが漂う、ただただタスコの町はずばらしいと申し上げておきましょう。

お金と暇があったらもう一度絵よりも美しいタスコに行ってみよう。十九時三十分、市長さんたちの拍手に送られタスコの町をあとに、一路アカプルコに向かう。途中兵隊の検問を二度受けたが、大使が同行しているので何のことは

車に積み込みカリアフォルニヤホテルに向かう。しばらく走ると、自動車は山の頂上に差しかった。そのとき真っ青なアカプルコ港が左側の眼下に見える。ここがアカプルコだ。

軍艦もいる。ヨットの白や黄色の三角帆が、青い海に無数に散らばっている。水上スキーの白い波跡がヨットをゆさぶっている。花のようなパラセリングは鳥のよう

なく通過してきた。

時速は六十キロ、夜道だからもつとスピードを出せないかと言ったら、牛がどこに寝ているかわからないし、あなたたちに事故があつては大変ですと笑われました。

アカプルコに着いたのが二十三日。ホテルは飛行場の近くのプリンスホテル。ホテルの大きいのと夜中でも人が右往左往しているのにも驚いた。部屋におちついたのでこれから夕食だ。二十四時、階下のレストランに行き夕食を済ませ、シャワーを浴びてベッドに着いたのが午前一時。

に飛んでいる。湾曲した白い砂浜に色とりどりのパラソルや売店のようないい小売店のように並びその後ろには巨大なホテルが林立している。何んとすばらしい海岸だろう。

その姿は御宿の海岸によく似ている。御宿の海岸を何十倍かに広くしたようなものだ。見とれていろうちに車はホテルに着く。部屋は二一〇七番、町長と二人。ポー

イさんが荷物を部屋まで運んでくれる。二十一階の七番、この部屋がまた実にすばらしい。

部屋は海に面し眺望がよく、眼下は海岸でみんなが泳いでいるのがよく見える。

ちきほど売店のような丸い小屋と申し上げたが、これは椰子の葉で丸く上手に作ったあずまやであった。実にすばらしい海の色、そして空の色、それに椰子、すべてが自然に調和がとれているのだろう。映画で見ているような大パノラマだ。これが世界の観光都市、南国のアカプルコである。

時間があるので海岸や市内を見学することにした。砂浜にはゴミ一つ落ちていない。MPが二人で巡回していた。チップをやって一緒に写真を撮った。さすが六十万都市といわれるアカプルコ、街中にはぎやかだ。ただ気になることは、小学生二年生くらいの子ども等が、買ってくれと工芸品を持って追っかけてくるのが気がかりだった。

夕暮れが迫ってきた。全員部屋に戻る。沈む夕日のすばらしさはまた格別だ。外はすっかり夕闇にまつまれた。二十一階の部屋から眺める百万、ルの夜景、南国の空

に輝く星の光、どれ一つ取っても筆では書き表わせない美しさだ。

二十時、大使の車が迎えにきたとの連絡で外に出る。市役所の車も来た。今夜は市長の晩さん会に招待されている。一流のレストランには市長夫妻とその他要人が待っていた。

一流のごちそうであろう。つきからつきへとテーブルに運ばれてきた。ここでの料理は私にも食べられた。イセエビも輪切りに出た。マグロ、貝などがメキシコ料理で出された。中身が日本のものと似ているのでそっと聞いてみたらシーフード(魚貝料理)だそう。とてもおいしかった。

二十三時、第二次会場へと席は移った。亀さんに乗った浦島太郎が竜宮城へでも案内されたように一時を忘れてホテルに帰ったのが夜明けの三時三十分。

市長さん、私たちのために本当にご苦労様でした。そしてごちそう様でした。

8月7日(土)晴

今日が一番大事な日です。それは、御宿とアカプルコの姉妹都市締結調印をする日なのです。大

使が十時十分に迎えに来た。市役所に到着したのは十時三十分。車を降りると兵隊が二名いた。衛兵である。日本の市役所とは大きな違いである。廊下には記者やその他の人たちが右往左往している。市長室に案内された。市長の指名で席順が決まる。私は前列、町

## アカプルコと姉妹都市の調印

# “御宿町民によろしく”

## 市長から卓上国旗の贈り物

市長の隣りでいつも副官だ。しかし補佐役で座っている訳にはいかない。決定的な瞬間を撮らなければならぬからだ。市長の差し出された迎賓署名簿に各自が署名する。大使と市長の会話が始まり、植原補佐官の通訳が始まる。

らしい。やつのこと見つけたが自動車のなかには書類がない。市長さん自ら電話器を取り、あちらこちらと捜させるがわからない。時間の観念のなさといひ、このよ

ろと説明がなされた。岩井敏夫と署名された。私は、夢中でシャッターを切る。つぎに岩崎栄一郎とカメラを置いて署名する。

## 市長はフラツ シュの放列

は、今日中に見つけて署名をし、明日必ずお届けするので安心して下さい。いわれてみれば市長室に代々そなえつけの迎賓簿の方が確かである。

く知っております。私たちは、その恩は決して忘れません。その後船を造って日本にお返ししました。岩井町長も私たち一行を代表して滞在中のお礼を申し上げました。アカプルコはすばらしい街だ。

どなりたくなつた。しかし、どんなに。町長と話し合った。

立合人は大使、大多喜町長、山岸議長、小倉議員と総務課長、記者はフラツシュの放列で市長室は熱気をおびてきた。クーラーをしてあるが、温度は上昇するばかり。

考えもなりたつ。しかし、私と町長は、協定書を持ち帰らなければ町民は納得しないであろうと思つと、理解できない。世界的に有名なメキシコ人の陽気でのんびり氣質がここにも表われた。

このアカプルコと姉妹都市を結ぶことは御宿町民を代表して非常にうれしいと告げれば、アカプルコはまだまだこれから発展しなければならぬ。みなさんの援助をぜひお願いしたい。(以下略)

それは、協定書であつた。これに署名をしてくださいと。いろいろ

署名された迎賓簿の協定書は確かなものだ。御宿で持参した協定書

そして、約束は必ず守ると胸を張る。

このような会話から始まって、御宿のみなさんよろしく伝えてくださいとメキシコの卓上国旗が岩井町長に手渡された。

“おんじゆくのみなさんよろしくね。アスタ・マニヤナ”なんと人柄のよい人たちであろう。時計を見たなら、十四時を回つていた。十四時三十分発の航空券を取つてある。ここから飛行場まで自動車で二十分はかかるという。大丈夫、市長さんがみんながいくまで飛行機を飛ばすなど、電話をして

市役所に衛兵がいたり、市長が電話一本すれば飛行機を遅らせた

ここで、また連絡不備のため一時間以上もロビーで待たされた。もう、こうなつたら居直るしか手はない。日本語で身振り、手振りで、窮すれば通じるものだ。とうとうホテル側の手落ちがあつたことでレストランに案内される。

昨日市長に手渡しておいた調印の書類がない。自動車のなからしい自動車のなかを調べに行つたが、その自動車がない。自動車の所在の追求、自動車は公用で出ている

市長の飛行機の出発遅りす

ふたたび、メキシコシティ飛行場から、ホテルに着いたのが十八

ちそうになる。ホテル側の謝罪であり、部屋に入り、時差の修正をする。

日本の御宿のみなさんよくいらつしやいました。西暦千六百九九年メキシコ人が助けられ、本国に送還されたことを改めてお礼を申し上げます。メキシコ人は誰もがよ

市役所は公用で出ている

市役所は公用で出ている

市役所は公用で出ている

空は久しぶりのくもりだ。今日は全く予定のない自由の身、全員で市内見学に行くことにした。

六千万人を有し、日本の本土の五倍の面積をもつメキシコ、その首都がメキシコシティ。何回も申し上げるが、さすがに広い。そして、自動車の行列だ。その主要交差点にはいろいろの記念碑などが建立されているのも目のなかに入る一つだ。

たとえば、私たちのホテルの前には革命記念塔があったり、その隣りは共和国広場、カルロス四世騎馬隊、コロンブス記念碑、ファウテモク記念像、なかでも独立記



現地美人に囲まれて

念塔は高々とそびえる。また、その隣りが日本大使館、さらに車を進めると、シモン・ポリバル像、

その下には、ディアナ噴水塔があり、実に見事であった。これだけ申し上げてもおわかりのように、道路がいかに広いかわかりと思

います。その他要所要所に広場があり、また、公園あり、博物館あり、道路という道路はすべて自動車がゆるやかな流れの水に乗っているようである。

時速は十キロか十五キロくらい

## 各所に広場「公園」記念碑

である。そして、すべての道は一方通行。だからどこを走っても安心だ。その間をぬうように、大人

にまじって子どもが、新聞や宝くじを持って各自動車に近寄り、買ってこれとせがんでいる。やがて自動車はオリンピックスタジアムの近くを通り、郊外にぬける。車

は、八十キロのスピードで約一時間くらい走った。もう、間もなくだ。大遺跡のピラミッド。話に聞けば、エジプトのピラミッドのような、石宝や墓はないとのことである。高さは六十メートルくら

いだそうだ。登ることにしたが、あいにく雨が降ってきたので断念した。

ガイドがないので、運転手の話しを植原補佐官が通訳してくれた。「太陽ピラミッド」で、その隣が「日のピラミッド」である。な

かには絵が描かれてあり、蝶の宮殿もある。ということだ。だが、そんなことよりも、ブラック小屋が立ち並ぶ店の方に興味をひかれた。雨が強くなってきたので帰ることにした。

往復四時間以上もかかった。あ

とは時間がないので見学をやめ、ショッピングをすることにした。ショッピングしてよかったのは、

メキシコの通貨はペソである。一ペソは日本円で約十円。値段表示に○を一つ追加すれば日本円となる。また、表示は(＄)ペソと(＄)とで、品物によって違

ます。一〇〇＄と表示してあれば日本円で約千円ということになる。今日は他にあまり報告することもないので、ホテルのことを若干申し上げます。高級、一級、一般とに別れてお

ります。高級で四百五十ペソ以上一級で三百五十ペソ以上、一般は百七十ペソ以上となっています。私たちの部屋は、五百ペソくらいなので、日本円で約五千円。高級な部屋になるわけです。

自動車も一、二、三等と分かれ、三等はバスと決められているそうです。

タクシーも色によって分かれており乗る前に料金の約束をしてから乗らないとポラレルとのこと。したがって料金は交渉次第です。

昨日、飛行場からホテルまでバスに乗りましたら、一人八ペソ(約八十円)。安い。私は運転手にピース一箱やったら喜んで、ホテルの前で自動車を止めてやるとのこと

で、ホテルの前まで来てくれた。向こうの国は、何によらずチップをやることです。便所に行くにもチップです。夜は東さんに案内されて中華料理店に行く。夕食会を全員共にした。九時三十分、町

長と私は中座して、植原補佐官を同行してタクシーで飛行場へ走る。乗る前にタクシー代の交渉。百ペソだ。日本円で千円です。昨日アカブルコ市長と約束したこと。それは調印書を大使が持参するの

で受け取りに行く。二時間も待たされて二十三時三十分。大使が間違

いなく、調印書を持参してくれました。町長と私は、これで一安心です。大使よりしっかりと受け取る

そして、当初から私たちを見守ってくれた。どこへでもお友をしてくれた大学の先生、そして大使の子

どもさん。その他の人たちと長い間お世話になりましたと堅い握手を交していつの日かまた会える

日を楽しみに「アスタ・マニャーナ」。もう会うことはないであろうあのやさしい大学の先生と。ホテルに着いたのが夜中の〇時三十分。大使さんにもメキシコ滞

在中は何かといろいろお世話様になりました。無事、大任を果たすことができました。御宿のみなさん、調印書も受け取りました。と、このよう

8月9日(月)晴

なことを思いながら、明日、いよいよメキシコを後にして帰国の途に着きます。下のロビーに東さんが別れを告げに

りに来てくれた。

植原補佐官、いろいろお世話になりました。また、日本で会いましょうと別れて税関を通る。帰路ロスアンゼルスで乗換えてホノルルに到着。機内で菅野儀作先生と会う。ここでも手統きの不備などでハブニングが起きた。

後で思うと笑い話ですが、自分たちの席がなかったため、ずうずうしくジャンボ機の一等室の空席に案内された。けがの功名とはこのことだろう。所要時間は八時間くらいだそうだが、現地時間は八時二十分。ここでまた時計の時差修正。それよりも荷物が着かないのには困ってしまった。どこか行方不明になったらしい。

### 8月11日(水)晴

いよいよ日本に帰れる。朝食を済ませ、身のまわりの整理、といつてもトランクが着かないので簡単だ。バック一つ肩にすればよい。間もなく自動車を迎えにきたので飛行場に向かう。ここで後から着いたトランクを受け取り、成田行

### 8月10日(水)晴

すばらしい海岸だ。海の色とヤシの木とホテルとが調和され砂浜にねころぶ人、ヨットに乗る人。アカプルコが自然の海岸ならば、ここは作られたような海岸だ。若井町長の要望でパールハーバーに行くことにした。やがて車は真珠湾に着く。アリゾナ号が今でもそのままの姿で、沈んでいるのと。湾は山と山との入江になっている。湖水のような湾だ。当時、あのようにたくさんさんの軍艦や戦艦が、ここにいたのかと思えるくらい狭い港にしか見えなかった。

また、山と山との間から遠く旅立ってきた無数の零戦がここをめぐって攻撃を仕掛けたのか、と思

いはせした。私たちがそばに行ったら、大勢の人が列をつくって待っている。

当時の海兵隊が船で沈んでいるアリゾナ号の真上まで案内するようだ。観光に一役かっているようだ。そんなことはあまり聞きたくないで黙っていたら、今は日本を憎んでいないとのこと。つぎにパイナップル畑に案内された。

ハワイの天気は非常に変わりやすい。今よく晴れていたと思っただけで、帰ることにし

### まとめ

メキシコを一口にどう表現すればよいでしょう。主都(シテイ)のあの東京以上の大都会に、現代の粋を集めて立ち並ぶ高層ビルがあるかと思えば、前述したように郊外に出ればバタ屋同然、はだか暮らしている人もいる。

この人たちは、世の中から忘れられているのかと思うほど貧富の差が激しい。歌っておどって楽しむ人。宝くじや新聞売りの少年がビルの立ち

並ぶ街中で、あちらこちらへと自動車を追って、買ってくれとせがんでいる。とにかく、ありとあらゆる人たちがなりふりかまわず共存共栄しているのではないでしょう。現代には、すばらしさがあり、古代には素朴さがある。そして、陽気な人たちの集まりがメキシコではないでしょうか。

終わりに、町民各位から寄せられた物心両面にわたるご協力とご支援に心から感謝とお礼を申し上げます。帰朝報告といたします。

偉大なる国、メキシコを発展を祈る。

### 後記

滞在日誌をまとめましたが、省略してあるところや解説しにくい点が多々ある事かと思いますが、なにとぞご容赦ください。

また滞在中メキシコ駐日大使、補佐官、植原氏になみなみならぬお世話になりましたことをご報告いたしますとともに、お礼を申し上げます。

# “ようこそ野沢のお友だち”

## 無事すんだ海と山の子ども交流会

海と山の子ども交流

会は、八月二日から四日までの三日間、野沢温泉村の児童、生徒五十一名、他に役員、PTAの関係者十九名を招いて、行なわれました。

台風八号の影響で、天候には恵まれませんでしたが、野沢御宿の児童たちの輪と多くの実行委員の協力で、楽しい交流会がくり広げられました。

“親切にしてください”

本当にありがとう”

野沢温泉村海と山の子  
交流実行委員会長・村長  
森 敏雄

五十三年度、夏季、海と山の子交流事業実施にあたり、本村訪問団、野沢温泉中学校一学年生徒五十名ほか教育、実行委員会二十名、総勢七十名が御地中学校生徒との交流のため、去る二日御地を訪問いたし、四日離町、五日早朝、無事に帰村しました。

御地、訪問に際しましては、町を挙げての歓迎を受け数々の催物などを通じ、相互の交流、親睦が図られ、この交流事業の目的が達成できたとの報告を受け、私は、このうえもない喜びであると同時に貴町関係機関とこの交流事業に関与された関係者各位の並々ならぬ、ご努力の賜と深く敬意と感謝を申し上げる次第であります。

たまたま台風の子波で、受入計画の変更をよぎなくされましたがその自然現象の中、何とか交流の

機会を設定、実施しようとする精心精意ある貴町関係者のご配慮とそのご苦勞に對しまして、重ねてお礼申し上げるものであります。参加した生徒は、太平洋海と心あたたまる受入れに人生のよき経験思い出になったことと確信いたしております。

野沢の連山に雪が見える冬季には、スキーの交流に貴町生徒のこ来訪を心からお待ち申し上げております。そして、両町村の今後一層の交流、親睦がかなえられることを希望いたします。

最後に貴町と実行委員会、中学校が今後、ますますご発展と関係者各位のご健康を祈念申し上げ、お礼にかえさせていただきます。

でっかい波にびっくり

砂の工作も楽しかった

野沢温泉村中1B 宮崎俊一

まず最初にびっくりしたのは、御宿町に着いて、役場前でやった歓迎式。式は予定よりだいぶおくれたのにたくさんの方がいた。なんだか、わるいような気がした。

宿の人は、しんせつでした。Tシャツがよごれたら、洗たくしてくれたり、干すのを教えてくれました。

御宿に行つて、一番心に残つた

のは、海に行つていろいろやったことでした。砂の中にうめられたり、波をとびこえたりしたこと。波がすごく高かった。あんな波の中で、泳いでみたいと思つただけでした。

砂で、いろいろな物を作つたり御宿の子たちと遊んだ。漁船に乗つて海へ出た。波がたかくて、船がよくゆれた。でも、それだけスリルがあつておもしろかった。

でっかい波が船にぶつかつて、



船がうきあがるとき、なんだかい気分になる。とてもおもしろかった。御宿の人はみんな親切で、とても楽しかった。一生の思い出になると思います。

# 心にきざざもう海と山の子

海と山の子交流委員会委員長

金井 英一郎



## 大粒の痛い雨

せつかく山の子を迎えたのに台風八号の逆戻りで、しつような荒模様。薄日が洩れるかと思えばす

ぐに沖合に黒い雲、やがてたたきつけるような大粒のわか雨。それは素はだにあたると痛い雨の粒である。うんざりするほどの波状攻撃である。

気まぐれ天気のかんげきをぬって、なんとか海水浴も、砂あそびも、スイカ割りもさせた。だが、かんじんの「漁船に乗って太平洋へ」と「メキシコ塔見学」の二つ

がやれずに、今日もまた海岸休憩所に閉じこめられている。

トタン屋根にたたきつけるはげしい雨足が止み、雨戸の外がぱぱーッと明るくなる。肩を寄せあつて待期している山の子たちの視線がチラッ、チラッとこつちを向く。私はマイクを持って立ち上る。

「もつと泳ぎたい人？」「ハアア」全員の手があがる。はだ寒いくらいなのに。ついでに聞いてみる。「メキシコ塔へ行きたい人？」「ハア」と女の子一人だけ。思わず苦笑。

雲がうすくなって日がさしてきた。するとどこからともなく色とりどりの水着姿の男女がわき出してきて、砂浜はたちまち華かさをとり戻す。

## 漁船に乗って太平洋へ

子どもたちに海水浴を楽しませながら、漁協と連絡をとり船の手

配を頼む。八隻の漁船が勢ぞろいする。すぐ海水浴を切り上げ岩和田港へ。分散乗船してスタンバイ海は、まだ台風之余波でうねりが残っている。漁船に乗って太平洋へ」のテーマのためには絶好のコンディションである。うねりを越えるたびに波しぶきがざあーつと降る。体験させたいことはこれなのだ。子どもたちの歓声と拍手。

よかった。これをやらないと交流の「背景」がなくなる。海水浴してスイカ割りをやっただけでは、十二時間バスにゆられてやってきたかいない。スキー場の片すみでスキーを習い、ミカン拾い競争をしてきた程度のことだ。野沢へ行ったらやはり毛無山に登り、高度差七百メートルを滑り降りることをさせたい。「海の御宿」であり「スキーの野沢」なのだから、子どもたちにとって一生忘れ得ない強烈な大きな体験となるように。岸壁にあがってから

「どうだった」と感想を聞けば男の子も女の子も異口同音、「もう一度乗りたい」。そうだろう、そうだろう。そうでなくては。

## メキシコ塔の落書き

海岸休憩所で昼食をとり、メキ

シコ塔に向かう。メキシコ塔周辺は暴走族のスプレー落書きでどこもかもさんたんたる有様  
「ダメなお兄さんたちだねえ。みんな大きくなって、こんなことをする人間になっちゃダメだよ」子どもたちは大きくコックリとうなずいている。

## 海の冒険者ものがたり

水平線を見てごらん。直線じゃないだろう。まいるだろう。地球はまるい。球形だってことがわかるねえ。

しかし昔、人々は、海は平面だと思っていたんだよ。その行きつく果は断崖になって地獄まで落ちこんでいるのだと信じこんでいたんだよ。  
コロンブスを知ってるねえ。十



漁船に乗って楽しい船出

五世紀の終りころ、イタリイ人コロンブスは、大西洋を西へ航海することにによってインドに達し得ると信じた。彼は長い長い航海の末アメリカ大陸を発見した。そこをインドだと思った。だから西インド諸島などという名前が残っているのだねえ。

同じころポルトガル人バスコ・ダ・ガマは大西洋を南下、アフリカ大陸の南端に達し喜望峰と名づけ、さらに東に東へと航海し、インドに到達した。ポルトガル人の船が東に東にと延びて東方のジバング（日本）の種が島にやってきて鉄砲を伝えたのはそれから五十年後のこと。

十六世紀のはじめ、ポルトガル人マゼランはコロンブスの発見し

たアメリカ大陸のまだ向こうにある海を渡ってインドに行こうとした。スペイン国王の援助を受けた彼は、大西洋を西航して南アメリカ大陸東岸に達し、そこから南下して南端にある海峡（マゼラン海峡）を発見した。その海峡を通り抜けると大きな海に出た。波が静かだったので太平洋と名づけた。彼は太平洋を西へ西へと進みフィリピン島のセブ島に到着する。不運なことにマゼランはここで土人に殺害されてしまうが、生き残った隊員デル・カノらはさらに西へ西へと航海してついにスペインにたどりついた

これがはじめての世界一周となる。世界が地球という球形であることが証明された。これが引き金

## メキシコ塔は住民の心

ドン・ロドリゴの乗った帆船サンフランシスコ号がこの御宿にやってきたのは今から三七〇年前。

ドン・ロドリゴら三七〇人の乗った船は台風におし流されこの海岸にうち寄せられ、岩にぶつかって難波してしまつた。この土地の人たちは総出で救助に當つた。男

となつてポルトガルは東に、スペインは西に向かつて航海し、ともに東洋に進出し、七つの海を制覇した。この時代を大航海時代と呼ぶ人もある。

さあ、みんな、さつき船に乗って沖へ出たねえ。野沢の巢鷹湖とちがうねえ。うねりがある。波がある。あれが海なんだ。あれで静かな方なんだ。

昔の船はエンジンなんてありません。帆に風を受けて走る。海流に乗る。星が頼りの何カ月も何年もの航海なんだ。もちろん安全は保障されない。生命がけだ。最高きわめつきの冒険野郎たちが、未知の世界に挑戦して五つの海を航海した。壮大な男のロマンの世界だった。

## 冬また逢おうね

こんなわけで天気が悪かったのは残念ですが、どうやら予定の行事の大部分を消化しました。

「蜜の光」の曲の流れるなかを「冬また逢おうね」と子どもたちは別れていきました。ありがたいことに、町民の皆さんから熱誠あふれるご協力がありました。その前に、この交流が相手とも町ぐるみの事業となつたことは、いろいろな方たちのご尽力によるものです。感謝のきわみです。有がとうございました。（五三・八・五）

「私たち先祖のヒューマニズ

はじまることになる。



海水浴場入り込み状況 (人)

年度 月別	52年度	53年度
7月	451,850	621,400
8月	578,370	476,000
合計	1,030,220	1,097,400

# 前年より約17万人も増加

## 海水浴場はどこも好調だった

### 御宿駅夏季輸送状況

種別	項目	今年	前年	増減	対比%	1日平均	
						今年	前年
取扱収入	出札	92,641,160	80,955,670	11,685,490	114.4	2,316,029	2,023,892
	改札	13,116,800	9,819,620	3,297,180	133.6	327,920	245,490
	払戻し	1,369,270	1,388,310	△ 19,040	98.6	34,232	34,708
	合計	104,388,690	89,386,980	15,001,710	116.8	2,009,717	2,234,675
乗車人員		99,119	96,370	2,749	102.9	2,478	2,409

今年の夏は晴天が続き、プール、駐車場、民宿、旅館などすべて入り込みは順調だったようです。昨年は八月に入り雨続きでしたので、比較にはならないと思いますが、それぞれ昨年との比較を表にしてみました。

駐車場の 利用状況	大型	普通	三輪	輪
	86台	19,385台	221台	.....53年度(11,222,600円)
86台	14,916台	151台	.....52年度(8,723,800円)	

### 町営プール入り込み状況

種別	52年度		53年度		対前年度比			
	人	円	人	円	人	円	%	
大人	11,145	4,458,000	17,988	7,195,200	6,843	2,737,200	61.4	
子供	10,169	1,525,350	14,261	2,139,150	4,092	613,800	40.2	
学割	5,942	594,200	6,921	692,100	979	97,900	16.4	
小計	27,256	6,577,550	39,170	10,026,450	11,914	3,448,900	52.4	
回数券	大人	冊 13	52,000	冊 23	92,000	冊 10	40,000	76.9
	子供	10	15,000	22	33,000	12	18,000	120
	学割	10	10,000	18	18,000	8	8,000	80
	小計	33	77,000	63	143,000	30	66,000	85.7
計	-	6,654,550	-	10,169,450	-	3,514,900	52.8	

### 海水浴場の ゴミ収集量

種別	52年度		53年度		対前年度比		
	台	円	台	円	台	円	%
普通車	855	513,000	958	574,800	103	61,800	12
二輪車	3	900	8	2,400	5	1,500	
小計	858	513,900	966	577,200	108	63,300	
ビーチベッド	445	133,500	970	291,000	525	157,500	117
ロッカー	2,047	102,350	2,670	133,500	623	31,150	30.4
パラソル	-	-	1	200	-	200	
電話使用料	-	1,810	-	10,730	-	8,920	
小計	-	237,660	-	435,430	-	197,770	
計	-	751,560	-	1,012,630	-	261,070	34.7
合計	-	7,406,110	-	11,182,080	-	3,775,970	50.9

53年度 214台

52年度 175台



海水浴でにぎわった海水浴場

## 長い夏の演出

### お客が主役

長く暑い夏が終わった。五月、千八  
日「海のカーニバル」——海開きか  
らスタートしたことしの夏は空ツユ  
と酷暑続きで、長いシーズンであつ  
た。  
夏の終りに「三気のついた今夏  
の特長を書いてみると——」。

課 長  
光 藤  
観 加

「御宿へ行ってものにも催しが  
ない」。「行事がないからつまらな  
い」という声は、町の人や、観光  
客からも聞くことがある。こうし  
た声に対して「御宿は、夏そのも  
のが観光演出であり、気やすめ程  
度の催しなど必要ないのです」と

いいたい。

海浜のレーリング作戦もその一  
つ。御宿へ御宿へと流行の水着  
ファッションを競つてやつてくる  
OLたち。特大のラジカセを器用  
に持ち歩くはだかの若者……。み  
んな彼らが夏を演出している。

## 放送よりもラジカセきいてくれ

「海岸の放送がなく、さびしい  
ね」いや「静かで結構」という声  
がきかれた。

がなりたてる放送。売れない歌  
手の歌。特異な放送はもう古い。

ラジカセ族は、マイベース。ラ  
ジカセよ、あんたが主役といった  
威風堂々と海辺をかつ歩。みんな  
マニヤだ。音楽を好みに合せて編  
曲している。ム向がどっちだろう

水着とラジカセとマイカーと最  
後にゴミの話をした。が、ど  
うもよい組合せではない。

五月の海開きを境に、六月、七  
月の初め、このころ特に目立つの  
が若い女性の水着の美しさ。若い  
独身貴族は、大勢人が出はじめる  
ころは、また別の一流観光地へい  
つてしまふ。

ことし夏のスタートが早かった  
こともあって若くて、美しい女性  
グループが大胆にはだを焼く姿が  
多かった。若い独身女性——いま  
や観光客のエリートなのだ。

七月の末から八月にかけて、学  
校が休みになると、客層は大分変  
わつてくる。その顕著な現われは  
やはり水着だ。このころからカメ  
ラのシャッターチャンスはめつき  
り少なくなる。海岸はそうぞうし  
くなり、迷子が続出し、またなん  
となくなごやかにもなる。

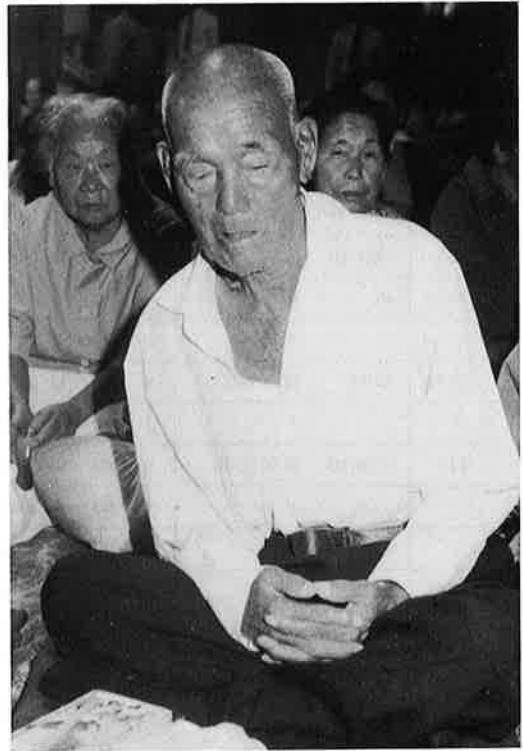
と関係ない。とにかく楽しんでい  
る。へたな放送や売れない歌手の  
歌など物の数じゃない。自分の時  
間が欲しいし、そこに自分の存在  
価値がある。都会のヤングは価値  
判断が早いのだ。

マイカー族の多かったのも今年  
の特長の一つ。お客の財布のヒモ

# 長寿おめでとう

## 今年もみんなで敬老会

### 最高は松本さんの94歳



町で最高齢者の松本久次郎さん、まだまだ元気です。下は遊戯でお年寄りを恵めるかわいい園児

九月十五日敬老の日にちなんだ町では公民館に、七十歳以上の方三百名を招待しました。

これは、多年にわたり、社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿をお祝いしたものです。

今年の最高寿の方は久保の松本久次郎さん、九十四歳です。

松本さんは、まだまだ元気で、かわいい園児の遊戯にじっと見入っていました。



## 三人が見事に入賞

### 高齢者文化祭

五十三年度千葉県高齢者文化祭第十二回老人クラブ作品展で次の三人の方が栄えの入賞をされました。

県主催老人クラブ作品展

社会福祉協議会長賞

手芸の部 南田キスミ 新町

郡老人福祉大会入賞者

手芸の部 南田キスミ 新町

〃 滝田 つま 〃

リボンフラワー

玉田 初子 岩和田

は意外と堅い。駐車場を敬遠して路上駐車場がハンラン。違法駐車を取締る前に駐車場を造れという人もいる。しかし、夏の御宿の路上駐車を解消するには、綱代湾を埋立てるくらいの決断が必要。

## 頭が痛いゴミ対策

ゴミが多かった。これも一流観光地のレッテルか。ゴミにまみれて酷暑と闘う。オーバーにきこえるが、実は真実。お客のマナーもまだまだ。したがってレーリリング作戦もまだまだ。

ゴミ解消にいくつかの意見を提案し、夏のレポートを終りたい。

一、国定公園は、国の費用で清潔を保つ。国の財政援助があれば人材と経費を思い切って投入できる。

一、有料海水浴場を考える。入場料を環境美化整備にあてる。

一、清潔レンジャー部隊を作り、強い権限を与え、ゴミ投棄の監視にあたらせる。

一、御宿海岸では、カン類、ビン類など一切売らせない。

お客さんの公德心が高まらない限り、以上のような方策を講じるより道がないような気がする。

# 住民検診を受けましょう

期 日	場 所	時 間
10月17日	久保 妙昌寺前	9:00~11:30
"	六軒町 消防小屋前	1:00~4:00
18日	実谷 消防小屋前	9:00~4:00
"	新久井 青年館前	1:00~4:00
19日	高山田 消防小屋前	9:00~11:00
"	浜 青年館前	1:00~4:00
"	"	5:00~7:00
20日	新町 青年館前	9:00~11:30
"	"	1:00~3:30
21日	岩和田 青年館前	9:00~11:30
"	"	1:00~4:00
"	"	5:00~7:00
23日	役場広場前	9:00~11:00
"	"	1:00~3:00



優勝した浜のとび魚子供会

## 浜のとび魚子供会が優勝

青少年のついで  
ポートボールで

八月二十日、大多喜町で 行なわれた青少年のついでい大会、

ポートボールの部で、浜のとび魚子供会が優勝しました。十月二十二日に千葉市で開かれる県大会に出場します。ご声援をお願いします。

寄付ありがとうございました

岩和田小学校に教育資料にと、二十万円の寄付がありました。これは岩和田漁業協同組合（組合長 畑中常司氏）と同青年部（部長 殿岡政一氏）からのものです。

## 21日まで行

## 政相談週間

### 苦情・疑問をどうぞ

今年も全国で十月十五日(日)〜二十一日(土)まで、行政相談週間が催されます。

この催しは、行政管理庁の主催によるものですが、当町でも同時に協力開催するものです。

行政相談は日ごろ、住民の方々が国の仕事・県・市町村が国からまかされた仕事・公社・公団などの仕事に関してもっている苦情や疑問などを解消するため、行政監察局と各市町村に配置されている

発行・千葉県御宿町

## 秋の狂犬病予防注射

行政相談委員が仲介の労をとるものです。

期 日	地 区	時 間	場 所
1 回目	10月11日(水)	岩和田	9:30~11:30 岩和田青年館前
	12日(木)	御宿町	9:30~11:30 "
	"	"	1:00~2:30 役場車庫前
2 回目	13日(金)	布施	1:00~2:00 井上鉄工所前
	"	"	2:10~3:00 立山公民館前
	"	"	3:10~4:00 実谷消防小屋前
	11月27日(月)	岩和田	9:30~11:30 岩和田青年館前
28日(火)	御宿町	9:30~11:30 役場車庫前	
29日(水)	布施	1:00~2:00 井上鉄工所前	
"	"	2:10~3:00 立山公民館前	
"	"	3:10~4:00 実谷消防小屋前	

## 全員が受診を

### 一歳六カ月児診断

赤ちゃんから幼児へと、子どもは体みなく発育していきます。身体面、精神面での成長、歯が生え自我にも目覚め始める一歳六カ月ごろが、心身障害防止を図るために、一番大切な時期です。

発行責任者・岩井 敏夫

御宿町では今年の該当者は百三十名ぐらいますが、年四回(五月、八月、十一月、二月)にわけて実施しています。全員の方が診査されるようおすすめします。



◇……おめでた……◇

八月 男2 女1 計3

区名 出生児 性別 保護者

須賀 吉野 知宏 男 貞義

久保 須藤友加里 女 三喜雄

新町 久我 真治 男 徹治

◇……おくやみ……◇

八月 男3 女2 計5

区名 死亡者 年齢 死亡日

須賀 桜井 むら 81 8月6日

浜 米本 重司 72 8月25日

久保 市原 庄蔵 67 8月19日

六軒町 吉田 むめ 84 8月6日

実谷 氏原 貞司 79 8月11日

人 口	
(8月未現在)	
前月比	8月
男	3,919
女	4,463
計	8,382
世帯数	2,332
増減	2

編集者・氏原 憲二